

おさるいつかの ピクニツク

作・絵

伊藤友里恵

北澤 紗希

下平 綾音

水野 綾香

山田 葉月

今日はぽかぽかあたたかい日曜日です。

おさるの仲良し三兄弟は、おいしい朝ご飯を食べ終わった後、

「今日は何して遊ぼうかな。」

と、うきうきしています。

その時お父さんが、みんなを集めて言いました。

お父さん 「今日はみんなでピクニックに行くよ！」

みーちゃん 「わーい！ピクニック大好き！どこへいくの？」

一番上のお姉ちゃんのみーちゃんが言いました。

するとお父さんが…

お父さん 「今日は、いつもとは少し違うピクニックなんだ…。」

みんな 「えー!？」

みんなが驚いた顔をしています。

お父さん 「今日はね、地震や洪水がおきた時に避難する小学校まで、みんなで危ない所を確かめながら、リュックをしょって歩いてみるピクニックなんだよ。」

と、お父さんが言っつて、押し入れからリュックを出しました。

このリュックは、避難する時のためにお父さんがいつも用意しているものなのです。

お母さん 「みんなのリュックも持ってきてね。」

と、お母さんが言いました。

みんな 「はい。」

きーちゃんも、みーちゃんも、いっくんも、自分のリュックを持ってきました。

いっくんは自分のリュックを持ち上げて、

いっくん 「このリュック重いねー。でもこのくらいならばく

しよえるよ。」

と言つてしよつてみました。でもいっくんはよろけてしりもちをついて泣き出してしまいました。

きーちゃん 「私のリュックも重たいよ。」

真ん中の女の子きーちゃんも言いました。

お母さん 「少しリュックの中身を減らしましょう。」

とお母さんがいました。

みーちゃん 「お父さんのリュックの中には何が入っているの？」

みーちゃんが聞くと、お父さんが、

お父さん 「それはね…。」

とリュックの中身をいろいろ取り出しました。

お父さん 「お父さんのリュックの中にはね、水や、非常食、ラジオ、懐中電灯などとっても大切なものが入っているんだ。」

お母さん 「きーちゃんのリュックには何を入れるのかな？」

きーちゃん 「お母さんの作ったおにぎり、水と、私の着がえや、お菓子をを入れるわ。ぬいぐるみもゲーム機もリュックに入れて行きたい。」

と言うと、お父さんが、

お父さん 「リュックが重たくなってしまいうからぬいぐるみかゲーム機のどちらか一つにしようね。」

と言いました。

そしてお母さんは、避難場所の小学校までの地図を取り出し、

お母さん 「この地図を使ってあぶない場所を確かめながら行きましようね。」

と言いました。

さあ、みんなのリユツクができ上がりました。

きーちゃんもみーちゃんもいっくんも軽くなった自分のリユツクを背負ってとてもうれしそうです。

お父さん 「さて、みんな準備はできたかな？」

お父さんが言いました。

みんな 「はい！」

みんなは元気いっぱい返事をしました。

お父さん 「それじゃあ、しゅっぱーっ！」

お父さんの大きな声を合図に、避難場所の小学校を目指し、おさる一家はピクニックに出発しました。

少し歩いて行くと、みーちゃんが言いました。

みーちゃん「あ、みんなこつちだよ！この橋を渡って向こうの道を行くと、学校に早く着くんだよ。」

いつも学校まで歩いているみーちゃんは、得意げに学校までの近道をみんなに教えました。

いっくん「わーい、じゃあ、早くいこうよ！」

いっくんの掛け声と一緒に、おさるの兄弟が、みーちゃんの教えてくれた道を行こうとしたそのとき…、

お父さん 「ちよーつとまって！」

お父さんが言いました。

お父さん 「この道は危ない所があるよ。」

みーちゃん 「えっ？お父さん！どこが危ないか教えて？」

と、みーちゃんが聞きました。

お父さん 「この道は川の堤防の道だよ。水が増えた時危ないから近づかない方がいいんだ。もしこの川が洪水のときあふれ出してきたら、どうなる？」

みーちゃん 「通れなくなっちゃう…。」

「おぼれちゃうよ。」

お父さん 「そうだね。だから避難する時この道を通るのはやめよう。」

するといつくくんが、

いつくくん 「じゃあ、こっちの道の方が危なくない。」

と地図を見ながら言いました。

お母さん 「そうね、こっちの道の方が安全ね。」

と、みんなは近道よりも広くて安全な道を選んで、また小学校を目指して歩き始めました。

しばらく行くと、きーちゃんが、大きな声でみんなに言いました。

きーちゃん 「ねえみんな、この道は危ないよ！」

みんな 「何で？」

きーちゃん 「だって、もし大きな地震が来たらあそこのブロッコリーも倒れてきそうだし、ビルのガラスも割れて落ちてきたら大変だよ。」

するとお母さんが、

お母さん 「まあ、きーちゃん、よく気付いたわ！」

と、きーちゃんに言いました。

きーちゃんのおかげでおさるの一家は安全に避難場所の学校まで行ける道を見つけたことができました。

お父さん 「もうすぐゴールの学校だ。みんなあとひといきだ。

頑張ろう。」

と、お父さんはみんなを励ましました。

いっくんは、

いっくん 「うん！僕、大丈夫だよ！！」

と元気いっぱい応えました。

そしてしばらく歩くと避難場所の学校に着きました。

お父さん 「みんな、着いたぞ！」

お父さんは嬉しそうに言いました。

兄弟 「わーい、着いた！着いた！」

と、おさるの兄弟は元気にバンザイをしました。

お母さんが地図を取り出して、

お母さん

「みんなのおかげで家から学校までの安全な道を書

き込んだ地図ができたわ。これで家から学校へ避難

する時はもう大丈夫。」

と、うれしそうにいました。

おさるの一家はほっとひと安心しました。

お母さん 「さあさあ、おひるにしましょうか。」

お母さんが言いました。

きーちゃん 「わーい、わたしもうおなかぺこぺこだよ。」

きーちゃんは、たくさん歩いたのでへとへとです。

おいしいお弁当を食べながら、お父さんが言いました。

お父さん 「みんな頑張って歩けたね。これで避難する時は大

丈夫かな？」

すると、いっくんが、

いっくん 「うん、ぼくみんなを、家から学校までつれて行ける

よー！」

と元気よく言いました。

おしまい

この紙芝居は、長野市と長野県短期大学との連携事業のひとつとして、幼児防災啓発事業のため幼児教育学科3年生が造形演習Ⅱの科目受講生が制作したものです。

平成二十四年十一月